

平成24年度
研究調査報告

【概要版】

第390集 稲田 保昭

問題解決能力を高める算数科学習指導の工夫に関する研究
～パフォーマンス課題を活用した授業づくり～

第391集 渡辺 由紀 市森 幸子 古森 ゆかり

不登校児童生徒への理解を深める支援方法に関する一考察
～若手教員に焦点をあてて～

1 研究の目的

小学校算数科において、パフォーマンス課題を活用した「逆向き設計」論による問題解決の授業づくりのモデルを作成し、その中で意欲的な思考を高め、問題解決能力の向上を促すことができるかを明らかにしていく。

2 研究の内容と方法

(1) 「逆向き設計」論による授業づくり

3年生の算数科「三角形のなかまを調べよう」で、「逆向き設計」論にもとづいた授業づくりを行う。指導の前に評価を明示し、その評価規準に児童が到達できるよう指導方法と指導内容を工夫し、意欲的な思考の高まりをめざす。

(2) 「パフォーマンス課題」の活用

パフォーマンス課題は、「思考を可視化する問題」とも言われ、その解答には「考えを記述する力」が必要となる。その中で、意欲的な思考を働かせることは、思考力・判断力・表現力を働かせることにもなり、問題解決能力向上につながる。その解答事例を通して、児童の「もがく」姿の変容を見取る。

(3) 効果の測定

検証授業前後でパフォーマンス課題を模したテストを実施し、意欲的な思考の表れである「考えを記述する力」の変容を、以下の3つの視点で見取り、比較・分析する。

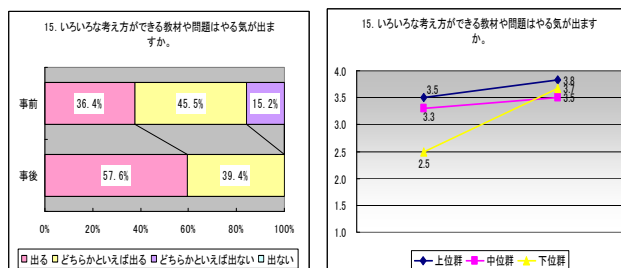
- ① 具体物、既習事項、友だちの考えなどを活用して、見通しを持って考えようとしている。
- ② 算数的な表現を選択して、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとしている。
- ③ 一つの考え方で満足せず、多様な考え方を追求しようとしている。

3 研究のまとめ

パフォーマンス課題を活用した授業において、考えたことを言葉や図で表すといった「考えを記述する」という経験が、意欲的な思考を高めることにつながり、問題解決能力の向上を促したと思われる。

「いろいろな考え方ができる教材や問題はやる気が出ますか」という質問に対して、事前から事後にかけて肯定的な回答が9.1%増加した。パフォーマンス課題は、児童にとって難しいと感じさせながらも、算数的活動の中に楽しさを味わわせ、意欲的な

思考の向上に効果的であると考えられる。特に学力下位群の児童の意識の変化が大きく表れた。



【いろいろな考え方ができる教材や課題はやる気が出ますか。

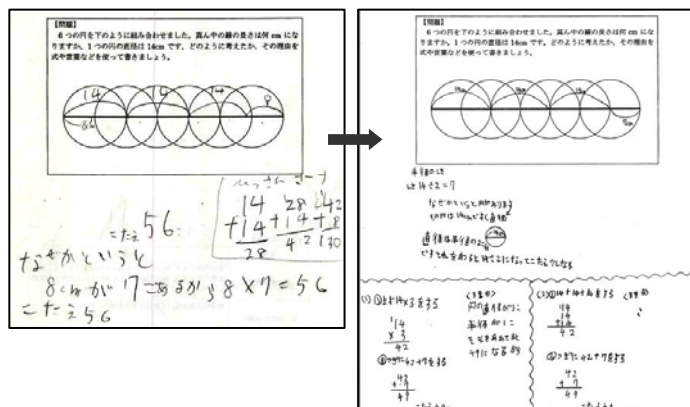
(左：事前事後，右：学力3群)】

(1) 「ねらいに到達させる手法の工夫」

身に付けさせたい力を考え、授業を組み立てることは、何をおさえるべきかを把握しながら授業を進めることにつながった。規準づくりそのものが、指導や授業の内容を検討することになり、評価を考えることの重要性を裏付けることになった。

(2) 「思考力を高める課題設定」

記述量の増加や解答の質の向上、多様な解法や実態アンケートの結果などからその効果が確認でき、検証授業の前後で児童の変容が見られた。パフォーマンス課題は、児童にとって意欲的な思考を高めることができると考えられる。



【同一児童の事前・事後の解答の変化】

(3) 「思考過程を適切に評価する方法」

考えを記述する解答形式から、児童の思考が可視化され、教師は質の高い評価を行うことが可能となり、その中で思考の過程を見取ることができた。また、思考力・判断力・表現力がどのように発揮されたか、多角的に評価をした上で指導することができた。

1 研究の目的

経験の浅い教員の、不登校傾向及び不登校児童生徒に対する理解度や支援の実態を調査して、課題を明らかにするとともに、効果的な支援方法を集約・整理して、若手教員に必要な研修を立案・実施し、その成果や課題からより効果的な研修内容を探ることである。

2 研究の内容と方法

(1) 研究の概要

① 中学校若手教員を対象に、不登校支援に関するアンケートを実施し、不登校傾向及び不登校生徒に対する理解度や支援の実態を明らかにする。

② 実際に不登校生徒を支援する先生から、実際に行っている（行った）不登校支援について聞き取り、その中から効果的な支援法を探り、学習会の教材として活用する。

③ 不登校傾向及び不登校児童生徒の支援に関する学習会を実施する。

④ 学習会直後と2学期末に、「振り返りシート」によるアンケートを実施し、学習会の内容が、不登校傾向及び不登校児童生徒に対する支援に活かされたかどうかを調査する。

⑤ 不登校傾向及び不登校児童生徒を支援する上での課題は何かを探り、若手教員が必要としている研修講座の内容を探る。

(2) データの収集

① 市内の経験年数5年以下の中学校若手教員を対象に、「不登校支援に関するアンケート」を、6月～7月に実施。

② 市内中学校を対象に、不登校傾向及び不登校生徒に対して行っている支援等についての聞き取り調査を、5月～7月に実施。

③ 学習会に参加した教員を対象に、学習会参加直後（夏）と事後（12月）に「振り返りシート」によるアンケート調査を実施。

(3) データの分析

① 「不登校支援に関するアンケート」は、以下の5つの項目をもとに支援の実態について分析した。

- ・ 不登校支援に関する学習や研修の有無
- ・ 不登校生徒との関わりの有無
- ・ 不登校生徒に対する効果的な支援方法
- ・ 不登校生徒を支援する上で困ること
- ・ 不登校支援について学びたいこと

② 「学校における効果的な支援方法」については、以下の4点から支援方法を整理した。

- ・ 不登校支援に関し気をつけていること
- ・ 効果的だった支援方法
- ・ 早期発見や早期対応の取り組み
- ・ 小中連携

③ 「振り返りシート」については、事前・事後に分けてまとめた。

事前…学習会参加理由と今後取り組みたいこと。

事後…学習会後に、取り組む意識に変化があったかどうか。実際の取り組んだこと。取り組む中で困ったこと。

3 研究のまとめ

中学校の若手教員を対象に、不登校支援に関するアンケート調査を行った結果、不登校生徒との関わりがあるにもかかわらず、研修や学習経験が少なく、基本的な支援方法がわからずに困っていることが明らかになった。不登校支援を学ぶきっかけとして、夏季休業中に初期対応の学習会を実施した。学習会の参加者の半数は小学校教員であったことから、小学校の不登校発生率は低くとも、中学校の教員と同様に悩んでいることがわかった。

長期化した不登校児童生徒の支援は難しく、不登校に関する知識や理解など基礎的な知識を初任者研修等で学んでおくことが望まれる。そして、不登校支援について教員の資質を向上させるためには、支援する段階別・校種別等それぞれのニーズに応じた研修の体系化とプログラムの充実を図ることが必要であると考察した。

各研究の詳しい内容は、四日市市立教育センター教育情報データベース（市立小・中学校・幼稚園のみ閲覧可）をご覧ください。

(URL <http://yec.db.city.yokkaichi.mie.jp/>)

教育情報データベース
四日市市教育委員会



グループ	キーワード名	
マイキーワード	1. 研究調査報告	教育研究 情報管理 教育セン ター
お知らせ・教育センターニュース	2. 実習指導案	市内の小 さいてい 情報を表 示
研究・研修・指導案・授業観覧ライブフォーラム・図書展覧会	4. 図書室案内	教育セン ター

